



「スマートメーター」って何？

◆通信機能持つ検針器／遠隔で使用量把握

Q－スマートメーターってなあに。

A－電気・ガスの使用量計測やデータ送受信の機能を備え、各種の遠隔操作ができるメーターのことです。

全国の電力会社では、2024年度の普及率100%達成を目指して切り替えが進められており、北陸電力でも今年3月末時点で全体の80・9%まで導入が進んでいます。

Q－どんなメリットがあるのかしら。

A－これまで1軒ずつ顧客を訪ねて使用量を検針していた作業が不要になります。引っ越し時の開栓立ち会いもいなくなり、契約アンペアの切り替えも遠隔でできます。ガスの場合も世帯ごとの使用量がリアルタイムで把握できるため、プロパンの交換配送を効率的に行えます。

Q－私たちにもメリットがあるの。

A－ウェブサイトを通じて現在の電気の使用状況が「見える化」されます。電力の使用パターンから最も安価な料金プランを選べるなど、電気代の節約にもつながります。また電力スマートメーターは30分間隔でデータを送信しています。電力使用量の変化から、離れて暮らす高齢家族の異変を把握でき、契約者に連絡したり、訪問したりする見守りサービスにも役立てられています。

Q－いろいろ使えるのね。

A－スマートメーターは地域の情報通信インフラ基盤としての役割も期待されています。富山市上下水道局は、北電が提供している「IoT用通信回線サービス」とスマートメーターを活用し、辺境地域での検針業務効率化や漏水の早期発見などの実証実験を始めています。今後も暮らしに関わるサービスに、地域の情報通信網として利用されていくことが期待されます。

Q－もっと進化するのかしら。

A－今後、設置から10年の有効期限を経た現行のスマートメーターは順次、次世代型への交換が始まります。国は今年5月に次世代高機能スマートメーターの仕様などを固め、電力DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進エンジンとして位置づけようとしています。デジタル田園都市国家構想の下でデジタル実装が進む中、スマートメーターはスマートシティのエネルギーマネジメントを支える基盤としての役割が高まっていくものと思われます。



富山市上下水道局が検針実用試験事業で使用している水道スマートメーター

(北陸経済研究所の丸澤千春が担当しました。)